

平成7年2月27日 (朝日新聞)

# ダム湖堆積土 田畑に活用

## 農作物収量増える

ダムの湖底に堆積(たいせき)する砂状の土を農地に運せて地力をつける客土事業が好成績を上げている。砂ほこりになり、ダム周辺の住民から苦情のもとになっている「やっかいもの」を利用して、湖底を深くすることでダムの貯水量を高めるねらいもある。伊予三島市と伊予三島地域農業改良普及センターが全国に先がけて取り組んでいるが、サトイモの収量が三割以上も増えた農家もあった。



運送業者のトラックで田畑に運び込まれるダム湖の堆積土。伊予三島市豊岡町で

### 貯水量高め ダブル効果

「柳瀬ダム堆積土活用客(金砂利)から採った約五百土事業」は、昨年二月、建立万坪の細かい砂状堆積土設置から採土許可が下りるを十七戸の農家の田畑に溜めを待って始まり、水かさを入した。この地方特産のサトイモ、ヤマノイモ、水稲、

野菜などを試験栽培した。同市農林水産課などの八農家での抽出調査結果では、サトイモは増えない場合に比べ八―三三%収量が多かつたうえ、商品価値の高い子イモや孫イモの数が多かつた。水稲の場合も十町当たり約六〇キロ、約一三%多い農家もあったという。

同課では「客土によって土質が改良され、連作障害が克服されるなどの効果がある。この堆積土は野菜や花木の育苗成績も良い結果が出ていたので将来が楽しみだ」と話している。

この客土事業は今年も実施され、昨年より多い二千立万坪の堆積土が同市内全域の希望農家約百戸の田畑に運び込まれている。